

教科	国語	学年	第2学年	単元のまとまりの評価規準		
単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
見えないだけ	1	◎ 語句について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)工） ◎ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝える。		【知・技】 語句について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)工） → 詩の中に出てくる好きな言葉や表現を、理由とともにまとめている。		【態】 進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
アイスプラネット	4	◎ 情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎ 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ◎ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝える。		【知・技】 情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。（(2)イ） → 登場人物どうしの関係や人物像を図式化して整理している。	【思・判・表】 「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。（C(1)ア） → ぐうちゃんの人物像や、登場人物どうしの関係を文章から読み取り、図にまとめている。	【態】 登場人物の設定のしかたなどを積極的に捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
漢字に親しもう 1	1	◎ 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ◎ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝える。		【知・技】 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） → 文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。		【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
【聞く】 意見を聞き、整理して検討する	1	◎ 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎ 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。（思・判・表A(1)ア） ◎ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝える。		【知・技】 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） → 意見と根拠を区別して捉え、適切な根拠の在り方について理解を深めている。	【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。（A(1)ア） → 発言者の立場を踏まえ、それぞれの意見と根拠を整理して考えをまとめている。	【態】 進んで意見と根拠の関係を整理しながら聞き、今までの学習を生かして根拠の適切さなどについて検討しようとしている。
文法への扉 1 単語をどう分ける？	2	◎ 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。（知・技(1)オ） ◎ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝える。		【知・技】 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。（(1)オ） → 自立語にどんな品詞があるかを知り、それぞれが文の中で果たす役割について理解を深めている。		【態】 学習課題に沿って、積極的に自立語について理解を深めようとしている。
魅力的な提案をしよう	5	◎ 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ◎ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。（思・判・表A(1)イ） ◎ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ◎ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝える。		【知・技】 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。（(1)ア） → 相手が自ら行動したいと思えるような言葉や表現を用いることを意識している。	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。（A(1)イ） → 重要なことが効果的に伝わるように話の構成を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。（A(1)ウ） → プレゼンテーションソフトや資料、図表などを用いて、自分の考えを伝える。	【態】 自分の考えがわかりやすく伝わるように粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもってプレゼンテーションをしようとしている。

教科	国語	学年	第2学年	単元のまとまりの評価規準		
単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
枕草子	3	◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。（知・技(3)ア） ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。（知・技(3)イ） ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ◎表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★<i>読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。</i>		【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。（(3)ア） →古典の文章独特の調子やリズムを意識して音読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。（(3)イ） →現代語訳や語注を手がかりに「枕草子」を読み、作者のものの見方や考え方を捉えている。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（C(1)オ） →作者の考えと自分の考えとを比較し、感じたことをまとめている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） →生活を振り返って、自分ならではの季節感を表すものを見つけている。 ・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。（B(1)ウ）	【態】文章を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、学習課題に沿って自分ならではの季節感を表す文章を書こうとしている。
クマゼミ増加の原因を探る	4	◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ◎文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。（思・判・表C(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★<i>報生や解説などの文章を読み、理解し、さまざまな表し方を理解し、活用する。</i>		【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。（(2)イ） →文章を構成する六つの部分の関係を図式化して整理している。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えている。（C(1)ア） →筆者の主張を捉え、それと仮説1～3との関係を理解している。 ・「読むこと」において、文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈している。（C(1)ウ） →文章中の図表やグラフが何のために示されているのかを、対応する文章を基に考えている。	【態】積極的に文章と図表などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって考えたことを話し合おうとしている。
情報を整理して伝えよう	5	◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★<i>報生や解説などの文章を読み、理解し、さまざまな表し方を理解し、活用する。</i>		【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。（(2)イ） →集めた情報を表や図にまとめ、整理している。	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） →知りたいことに適した方法を考えて情報を収集し、収集した情報を分類・整理して自分の目的に合うものを取捨選択している。	【態】多様な方法で集めた情報を粘り強く整理し、学習の見通しをもって職業ガイドを作ろうとしている。
漢字1 熟語の構成 漢字に親しもう2	1	◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★<i>報生や解説などの文章を読み、理解し、さまざまな表し方を理解し、活用する。</i>		【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） →熟語の構成を意識しながら、漢字を読んだり書いたりしている。		【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

教科	国語	学年	第2学年	単元のまとまりの評価規準		
単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
短歌に親しむ 【書く】短歌の創作教室 短歌を味わう	5	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)工） ◎観点を明確にして短歌を比較するなどし、表現の効果について考えることができる。（思・判・表C(1)工） ◎短歌を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★短歌などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。（思・判・表C(2)イ） ★短歌を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。（思・判・表B(2)ウ）		【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)工） →情景などを表す語句に着目して作品を読み深めている。 →情景や心情が生き生きと伝わる言葉を選んで短歌を創作している。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にして短歌を比較するなどし、表現の効果について考えている。（C(1)工） →複数の短歌を比較し、歌われた情景や心情、表現とその効果について考えている。 ・「読むこと」において、短歌を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（C(1)オ） →好きな一首を選び、自分の知識や経験と結び付けて感想を書いている。 ・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫している。（B(1)ウ）	【態】表現の効果について進んで考え、学習の見通しをもって短歌を創作しようとしている。
言葉の力	2	◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。（知・技(3)工） ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）		【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。（(3)工） →本や文章を読み、さまざまなものの見方・考え方に触れることで、自分の考えを広げたり深めたりできることを理解している。	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（C(1)オ） →言葉に対する筆者の考え方について自分の考えをもち、話し合っている。	【態】文章を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
言葉1 類義語・対義語・多義語 語彙を豊かに	2	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)工） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）		【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)工） →類義語・対義語・多義語の概念について、具体例を当てはめて理解している。 →抽象的な概念を表す語句について、類義語や対義語と比較することを通して語感を磨き、語彙を豊かにしている。		【態】今までの学習を生かして、積極的に類義語と対義語、多義的な語句、抽象的な概念を表す語句などについて理解しようとしている。
メディアの特徴を生かして情報を集めよう	2	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することができる。（思・判・表C(1)イ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかに		【知・技】 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） →メディアが伝える情報の内容とその根拠の適切さに着目している。 ・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解使っている。（(2)イ） →メディアの特徴を、表や図などにまとめている。	【思・判・表】「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。（C(1)イ） →メディアの特徴を踏まえ、情報の信頼性を判断するために必要なことについてまとめている。	【態】複数の情報を進んで整理しながら適切に読み取り、学習課題に沿って目的や状況に応じた情報収集のしかたについて考えをまとめようとしている。

教科	国語	学年	第2学年	単元のまとまりの評価規準		
単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読書を楽しむ	1	◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。（知・技(3)工） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★小説を読み、引用して解説したり		【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。（(3)工） →活動を通して本の魅力を感じ、今後どんな本を読んでいきたいかを考えている。		【態】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで理解し、今までの学習を生かして、本の魅力や感想を共有しようとしている。
ヒューマノイド	4	◎話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。（知・技(1)オ） ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。（思・判・表C(1)イ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★小説を読み、引用して解説したり		【知・技】話や文章の構成や展開について理解を深めている。（(1)オ） →登場人物の言動や伏線に着目し、それらが話の展開にどのように関わっているのかを考えている。	【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。（C(1)イ） →過去と現在、伏線と結末を結び付けて、登場人物の言動の意味を解釈している。	【態】登場人物の言動の意味について粘り強く考え、今までの学習を生かして作品の印象を伝え合おうとしている。
字のない葉書	3	◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。（知・技(3)工） ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。（思・判・表C(1)工） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★随筆を読み、引用して解説したり		【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。（(3)工） →随筆の味わい方について考え、日常の読書に生かせそうな点をまとめている。	【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。（C(1)工） →前半部分と後半部分の人柄や心情の描かれ方を比較し、表現の効果について考えている。	【態】文章の構成や表現の効果について進んで考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く	3	◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。（知・技(1)カ） ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★社会生活に必要な手紙や電子メール		【知・技】 ・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。（(1)ア） →何かをお願いする文面などにおいて、どのような言葉を選ぶと、相手に引き受けもらえるかを考えている。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。（(1)カ） →相手や目的に応じて、敬語を適切に使って書いている。	【思・判・表】「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。（B(1)ウ） →自分の思いや考えが伝わるように、具体的な説明を加えたり、表現の工夫をしたりしている。	【態】自分の考えが伝わる文章になるように積極的に工夫し、学習課題に沿って手紙や電子メールを書こうとしている。
言葉2 敬語	1	◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。（知・技(1)カ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）		【知・技】敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。（(1)カ） →敬語を使う生活場面を想定し、敬語の働きについて理解を深めている。		【態】今までの学習を生かして、積極的に敬語の働きについて理解しようとしている。

教科	国語	学年	第2学年	単元のまとまりの評価規準		
単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞き上手になろう	2	◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ◎論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)工） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言など		【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。（(1)ア） →どのように質問をすると、相手がさらに話したくなるかを考えている。	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。（A(1)工） →話の要旨や展開に注意しながら聞き、話を広げたり深めたりする質問をしている。	【態】論理の展開などに注意して粘り強く聞き、今までの学習を生かして思いや考えを引き出すインタビューをしようとしている。
漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 漢字に親しもう3	1	◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。		【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） →文脈や言葉の意味に注意して、漢字を読んだり、書いたり		【態】積極的に同訓異字や同音異義語を理解し、学習課題に沿って漢字を読んだり書いたりしようとしている。
モアイは語る——地球の未来	5	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎文章の構成や論理の展開について考えることができる。（思・判・表C(1)工） ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）		【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） →筆者の意見（主張）がどのような根拠によって支えられているかを捉えるとともに、より適切な根拠の在り方を理解している。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。（C(1)工） →文章全体の構成を捉え、意見と根拠の結び付きや論理の展開を吟味している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（C(1)オ） →自分の知識や体験と結び付けながら、筆者の主張に対する自分の意見を文章にまとめている	【態】論理の展開について粘り強く吟味し、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。
適切な根拠を選んで書こう 意見文を書く	5	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。（思・判・表B(1)イ） ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。（思・判・表B(2)ア）		【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） →自分の意見を支えるための適切な根拠を選んでいる。	【思・判・表】 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係を明確にし、文章の構成や展開を工夫している。（B(1)イ） →段落のまとまりを意識して、自分の意見が明確に伝わるよう文章の構成を決めたり、段落の順序を検討したりしている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。（B(1)ウ） →根拠として適切な事実と、意見と根拠を無理なく結び付ける「理由づけ」を示し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	【態】粘り強く根拠の適切さを考え、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。

教科	国語	学年	第2学年	単元のまとまりの評価規準		
単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音読を楽しむ 平家物語 「平家物語」の世界／ 「平家物語」の主な登場人物たち	1	◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。（知・技(3)ア） ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。（知・技(3)イ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）		【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。（(3)ア） →漢語を交えた独特の調子とリズムを捉えて朗読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。（(3)イ） →冒頭部分の現代語訳や、「平家物語」のあらすじを読んで、		【態】 進んで古典に表れたものの見方や考え方を知り、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
扇の的 ——「平家物語」から	3	◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。（知・技(3)ア） ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。（知・技(3)イ） ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。（思・判・表C(1)イ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★ 古典作品などを読み、引用して解説		【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。（(3)ア） →「平家物語」の、漢語を巧みに交えた独特の調子やリズムを意識して朗読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。（(3)イ） →与一や義経の言動、扇の的を射落とした後の人々の反応に着目し、古人のものの見方や考え方を捉えている。	【思・判・表】 「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。（C(1)イ） →「扇の的」での与一の言動や「弓流し」の場面での義経の言動の意味について考え、作品を読み深めている。	【態】 登場人物の言動の意味について進んで考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
仁和寺にある法師 ——「徒然草」から	3	◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。（知・技(3)ア） ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。（知・技(3)イ） ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。（思・判・表B(1)イ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）		【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。（(3)ア） →古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。（(3)イ） →現代語訳や語注などを手がかりにして読み、文章に表れた作者のものの見方、考え方を理解している。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（C(1)オ） →仁和寺の法師の描き方などを踏まえて、作者のものの見方について考えたことを話し合っている。 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。（B(1)イ） →人物像が明確に伝わるように、文章の構成を工夫して、古典の表現手法について理解している。	【態】 積極的に知識や経験と結び付けて考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって登場人物について論じる文章を書こうとしている。
漢詩の風景	3	◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。（知・技(3)ア） ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。（知・技(3)イ） ◎観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えることができる。（思・判・表C(1)エ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★ 漢詩などを読み、引用して解説した		【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。（(3)ア） →漢詩の構成や表現の特徴を意識して朗読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。（(3)イ） →解説の文章を手がかりにして、詩の作者の思いを想像し、古人のものの見方、考え方について考えを深めている。	【思・判・表】 「読むこと」において、観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。（C(1)エ） →好きな漢詩を選び、気に入った表現や句を引用しながら、構成や表現の効果を伝え合っている。	【態】 進んで漢詩の構成や表現の効果を考え、今までの学習を生かして朗読しようとしている。

教科	国語	学年	第2学年	単元のまとまりの評価規準		
単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
君は「最後の晩餐」を知っているか 「最後の晩餐」の新しさ	5	◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。 （知・技(2)イ） ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。 （思・判・表C(1)工） ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★評論や解説の文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章に		【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。（(2)イ） →二つの文章を比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を表に整理している。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。（C(1)工） →文章の構成や表現の特徴などについて、二つの文章を比較して発見したことを話し合っている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（C(1)オ） →二つの文章を比較したり、書き方の特徴を捉えたりすることで、筆者が文章を書いた意図や	【態】進んで観点を明確にして文章を比較し、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。
話し合いの流れを整理しよう	1	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)オ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）		【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） →意見と根拠の関係に注意して、話し合いの内容を聞き取っている。	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。（A(1)オ） →意見の内容や意見どうしの関係に気をつけて、話し合いの流れを整理している。	【態】話し合いの流れを整理するときに必要なことを進んで考え、今までの学習を生かして話し合おうとしている。
文法への扉 2 走る。走らない。走ろうよ。	2	◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。（知・技(1)オ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）		【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。（(1)オ） →用言の活用形と活用の種類について、語例を基に理解している。		【態】今までの学習を生かして、積極的に用言の活用について理解しようとしている。
立場を尊重して話し合おう 討論で視野を広げる	4	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)オ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）		【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） →適切な根拠となる情報を集め、意見と根拠、理由づけを整理している	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。（A(1)オ） →互いの意見の共通点や相違点、話し合いの論点を踏まえて質問したり反論したりし、振り返りにおいて自分の考えをまとめている。	【態】進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとしている。
漢字に親しもう 4 1 時間	1	◎第 1 学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝		【知・技】第 1 学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。		【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

教科	国語	学年	第2学年	単元のまとまりの評価規準		
単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
走れメロス	8	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 （知・技(1)工） ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。（思・判・表C(1)イ） ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)工） →作品中の漢語を和語に置き換えると、印象がどのように変わるかを考えている。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。（C(1)イ） →メロスや王の言動に着目して、考え方や心情の変化を読み取っている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（C(1)オ） →読み深めたことや、文学の読み方に関する知識・経験を生かして作品の魅力を分析し、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。（B(1)ウ）	【態】登場人物の言動の意味などについて粘り強く考え、学習の見通しをもって作品の魅力を文章にまとめようとしている。	
漢字に親しもう5	1	◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。		【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	
文法への扉3 一字違いで大違い 文法3 付属語	2	◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。（知・技(1)オ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。（(1)オ） →助詞・助動詞の働きや種類について理解し、文や文章で使われている助詞や助動詞の意味・用法を判別している。		【態】今までの学習を生かして、積極的に助詞や助動詞の働きについて理解しようとしている。	
描写を工夫して書こう 心の動きが伝わるように物語を書く	5	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)工） ◎表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ◎表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出すことができる。（思・判・表B(1)オ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)工） →これまでに読んだ物語や小説の表現を参考にして、場面の様子や人物の心情を表す語句を使って書いている。	【思・判・表】 ・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。（B(1)ウ） →読み手が場面の様子や人物の心情を具体的に想像できるように、表現の効果を考えながら描写を工夫している。 ・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見だしている。（B(1)オ） →書いた物語を友達と読み合い、よい点や改善点を伝え合う。	【態】粘り強く描写を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。	
言葉3 話し言葉と書き言葉	2	◎話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。（知・技(1)イ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】話し言葉と書き言葉の特徴について理解している。（(1)イ） →話し言葉と書き言葉について、それぞれの特徴を理解し、表現する際にどのような注意が必要かを考えている。		【態】今までの学習を生かして、積極的に話し言葉と書き言葉の特徴について理解しようとしている。	

教科	国語	学年	第2学年	単元のとまりの評価規準		
単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字3 送り仮名	2	◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝えることができる。（思・判・表A(1)オ） ◎表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。（思・判・表B(1)オ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。（思・		【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） →送り仮名に注意して、漢字を読んだり書いたりしている。		【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
国語の学びを振り返ろう	4	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)オ） ◎表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。（思・判・表B(1)オ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。（思・		【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） →これまでの学習活動における具体的な変化を抽象化してまとめている	【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。（A(1)オ） →互いの考えを尊重しながら対話し、それを通して自分の考えを整理したり、価値づけたりしてまとめている。 ・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。（B(1)オ） →自分の作品の読み手からのコメントを通して、自分の文章のよい点や改善点を見いだしてい	【態】粘り強く国語を学ぶ意義を考え、今までの学習を生かしてコピーにまとめてクラスで交流しようとしている。
鍵	2	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)エ） ◎詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★詩歌を読み、引用して解説したり、		【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)エ） →詩の中で使われている言葉に着目し、語感や表現の効果を考えている。	【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（C(1)オ） →自分の知識や経験と結び付けて、作者のものの見方について考えている。	【態】詩を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとしている。
国語の力試し	3	◎類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解することができる。（知・技(1)エ） ◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。（知・技(1)カ） ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、表現の効果について考えることができる。（思・判・表C(1)エ） ◎論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)エ） ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ◎読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）		【知・技】 ・類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解している。（(1)エ） →類義語の意味や用法を比較し、文脈に応じてより適した語を選んでいる。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。（(1)カ） →敬語の働きや種類を理解し、電子メールの下書きを推敲したり、文面を書いたりしている。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。（C(1)ア） →「枕草子」の原文と、二つの現代語訳を比較して読み、文章の中心的な部分を捉えている。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、表現の効果について考えている。（C(1)エ） →「枕草子」の二つの現代語訳を比較して読み、表現の効果について考えている。 ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。（A(1)エ） →「卒業生に贈る言葉」についての野口さんの提案を論理の展開に注意して聞き、伝えたいことを捉えること	【態】今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。